

芸術工学実習 (D) 5 後半

「心理物理学測定法による感覚量の測定」

目的

感覚を定量的に表すためには刺激や感覚が量的に測定されることが必要ですが、一般に感覚は直接に測定が困難で、ただ感覚が存在するか否かもしくは他の感覚よりも大きい小さいか等しいかがわかるだけです。そこで間接的にある感覚を生じさせることができる刺激の最小の強度を測定し、これを閾値（いきち）と定義しています。感覚に応じて様々な閾値が存在し、例えば、視覚系においては「色の検知」に関係する色弁別閾値や、「明るさの検知」に関連する明るさ閾値などが存在します。このような閾値の測定法は心理物理学測定法（もしくは精神物理学測定法）として体系化されています。本実習では、心理物理学測定法を用いて感覚量を具体的に測定することにより、基本的な心理物理学測定法を理解することを目的とします。

実習は以下の日程で進める予定です。

- 第1週 実験心理学の説明、心理物理学測定法の概要の説明
- 第2週 - 第5週 具体的にどのような感覚量を測定するか、テーマ決め、および実験手法検討
- 第6週 解析の共有、実験結果のまとめ
- 第7週 発表

～これまでのテーマ例～

- ・「プリン」と「茶碗蒸し」の境界の測定
- ・「青色」と「緑色」の境界の測定
- ・水とお湯の音の違いの境界を探る
- ・クッキーの甘さ感度についての個人差の測定
- ・人とアニメキャラクターにおける最適な瞳の大きさの違いの測定

～備考～

心理物理学測定法による簡単な人の感性評価ができることを目標とします。
プログラミングに関する知識は必要ありません。

連絡先：辻村誠一 / tsujimura@sda.nagoya-cu.ac.jp